

南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN

vol.228
2024.6.30

特集

「山里キャンパス」60周年
～日本建築学会賞(業績)受賞～



NANZAN
UNIVERSITY

「山里キャンパス」60周年

南山大学が1964年に山里町に移転してから60周年を迎えました。
このキャンパスは建築家アントニン・レーモンドが「自然を基本として」をコンセプトに、
マスタープランから設計までを手掛けたモダニズム建築の傑作の一つです。
このコンセプトを継承しつつ増築、改修等を行い、キャンパスを保存活用してきた本学の取り組みが
このたび日本建築学会賞(業績)を受賞しました。
これを機に「山里キャンパス」60周年を記念した様々な企画を開催します。



Beautiful Campus, Nanzan Mind
知が行き交う 学び舎の丘



南山大学のキャンパスの最も大きな特徴はマスタープランにあると考えられます。校舎は、メインストリートに対して直交して、重なるように配置されています。メインストリートを歩くと、ピロティをくぐる度に、校舎に囲まれた小さな広場の様な空間が連続する特徴があります。このようなヒューマンスケールの広場の連続は、人と人との距離を近づけ、より親密な交流空間をつくることができます。メインストリートを歩いていると、人とすれ違う機会が多く感じられると思います。

この校舎配置を更に特徴付けるのが校舎の間に育つ緑の存在です。教室室内からも緑を通した景色をみることができ、都心部のキャンパスでありながら、緑を近くに感じる場所が多く存在しています。

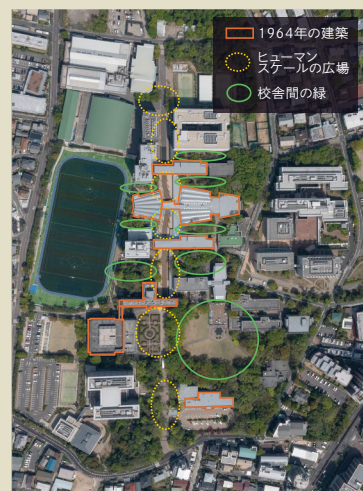
建築の意匠も特徴的で、コンクリートそのものを見せる打放仕上げと南山の赤土と同じように色付けられた壁が並び、ルーバーや庇がつくり出す水平垂直のリズムがとても美しいキャンパスの景観をつくっています。



マスタープラン模型を囲むアントニン・レーモンドと所員^{※1}



丘の尾根道をメインストリートとした
キャンパスマスタープラン(1964年)^{※2}



キャンパス航空写真(2019年)

※1 写真:レーモンド設計事務所提供

2024年 日本建築学会賞(業績)を受賞しました

日本建築学会賞は、1949年以来、一般社団法人日本建築学会が設けている建築の賞です。国内で最も権威のある建築の賞とされ、建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかるとともに、日本の建築文化を高める目的で、建築に関する特に優秀な業績を表彰するものです。
日本国内における建築・建設分野で功績を上げた個人・団体を称え授与され、論文、作品、技術、業績の4部門からなります。
南山大学は1965年に作品賞を受賞しており、今回2024年に業績賞を受賞しました。
今回の業績賞は、2016年のQ棟・リアンの新築から始まり、レーモンド・リノベーション・プロジェクト、2023年のライネルス中央図書館計画を経て、長期間にわたリレーモンド建築の再生保存を取り入れながらキャンパスを継続的に成長させている取り組みが評価されました。

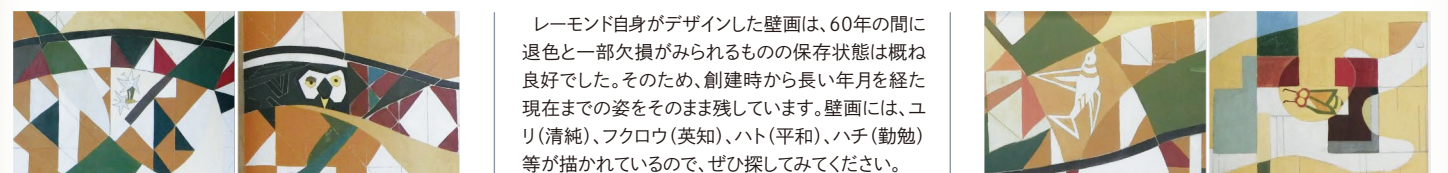


▲特設Webページ
はこちら



今でも60年前の建築を感じられる場所

レーモンド・リノベーション・プロジェクトを通じて、今でも60年前の建築・素材を感じられる場所が学内にはたくさん残っています。



レーモンド自身がデザインした壁画は、60年の間に退色と一部欠損がみられるものの保存状態は概ね良好でした。そのため、創建時から長い年月を経た現在までの姿をそのまま残しています。壁画には、ユリ(清純)、フクロウ(英知)、ハト(平和)、ハチ(勤勉)等が描かれているので、ぜひ探してみてください。

※2 写真:南山アーカイブズ所蔵



ライネルス中央図書館 エントランスラウンジにあるレーモンド・リノベーション・プロジェクトの展示コーナー。「山里キャンパス」の様々な特徴を展示しています。

2024.3.13

南山チャレンジプロジェクト活動報告会

3月13日、2023年度南山チャレンジプロジェクト活動報告会を実施しました。「南山チャレンジプロジェクト」は学生による学内を活性化する企画や地域との交流、国際交流などを推進する取り組みとを大学として支援し、学生の成長につながる多様な機会を創出することを目的としています。

採択された以下の4団体が、1年の活動を振り返り、実施した企画や、活動の中で生じた困難な状況をどのように乗り越え、何を学んだか等を発表しました。
・チャレンジ企画型: Activate NRL、Johnan Meets、Nanzanチャリティコンサート有志団体、SDGs Foodloss Nanzan University Group



▲報告会で発表をするSDGs Foodloss Nanzan University Groupの学生

2024.3.19

2023年度 学生部長表彰式

3月19日、2023年度学生部長表彰式を開催しました。学生部長表彰は、個人もしくは団体が課外活動において特に優れた成績をおさめたとき、または課外活動に著しく貢献したとき、特に顕著な善行を認められたときに授与されます。

今年度は、個人20名と10団体に賞が授与されました。



▲吉田敦学生部長より表彰状が授与されました

2024.3.19

2023年度 学長表彰

卒業予定者のうち品行方正で、学業あるいは課外活動で特に優れた成績を修めた学生、または特に顕著な善行が在学中継続した学生30名に、その努力と栄誉を称え、学長から表彰盾を授与しました。

【人文学部】7名 【法学部】3名
【外国語学部】6名 【総合政策学部】3名
【経済学部】3名 【理工学部】3名
【経営学部】3名 【国際教養学部】2名



▲キサラ学長より表彰状が授与されました

2024.3.20

2023年度 卒業式

3月20日、2023年度卒業式を行い、2,019名(学部生1,953名、大学院生66名)の卒業生を送り出しました。

式典では中部地区を含む西日本で唯一のカトリック総合大学である本学らしく、「卒業感謝の祈り」として司祭による聖書朗読、各学部の代表学生による共同祈願などとともに学位記授与式が行われ、会場は厳粛な雰囲気になりました。

当日はインターネット(YouTube Live)で卒業式の模様を同時中継しました。



▲卒業式の様子

2024.3.31-2024.4.4

フレッシュマン祭

3月31日から4月4日までの5日間、フレッシュマン祭を開催しました。

新入生向けにクラブ・サークル紹介をするため、今年は116団体がキャンパス内でチラシの配布や勧誘活動、教室やフラッテンホール、体育館、グリーンエリア等でのイベントを実施しました。



▲メインストリートの様子

2024.4.1

2024年度 入学式

4月1日、2024年度入学式を行い、2,468名(学部生2,373名、大学院生95名)の入学者を迎えました。

ロバート・キサラ学長は告辞において、「これからの4年間の在学期間中、地球規模の関心を深め、自分独自の貢献、自分であるからこそできる貢献を見出してください。」とメッセージを贈りました。

当日はインターネット(YouTube Live)で入学式の模様を同時中継しました。



▲入学式の様子

News

「南山大学国際教養学部・株式会社極東精機給付奨学金」学修成果報告会

「南山大学国際教養学部・株式会社極東精機給付奨学金」は、株式会社極東精機様(以下、極東精機)からのご支援を原資とし、国際教養学部で学ぶ東南アジアおよび南アジア諸国いずれかの国の国籍を有する者に対し給付する奨学金です。

3月19日、奨学生に採用された留学生3名の内2名による学修成果報告会が極東精機本社で行われました。それぞれ自己紹介を交え、この1年で学んだことや日頃の学生生活、自分の研究テーマ等について報告しました。



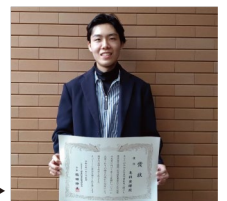
▲左から: 北野毅社長、北村国際教養学科長、PACHHAI Pabisaさん、DO NGAN HAさん、神崎教授、北野晴美監査役

法学部の学生が「刑事政策に関する懸賞論文」で佳作に入賞

一般財団法人日本刑事政策研究会・読売新聞社主催の「刑事政策に関する懸賞論文」で、法学部法律学科3年(受賞当時)毛利英暉さんが佳作に入賞しました。大学又は大学院の学生が対象で、刑事政策に関す

る優れた論文に対して授与されます。

毛利さんは、「子どもの性犯罪被害の『打ち明けにくさ』とその緩和のための取り組み」というタイトルで受賞しました。



毛利英暉さん ▶

経済学部大鐘ゼミの学生が「第2回 今後の社会資本のあり方に関する懸賞論文」学生の中で優秀賞と佳作を受賞

一般財団法人国土技術研究センター主催の「第2回 今後の社会資本のあり方に関する懸賞論文」学生の中で、経済学部大鐘ゼミ4年生(受賞当時)の千種莉央さん、石川楓さん、久保田咲紀さん、西井萌々香さんの4名が発表した論文「インフラ充足度が日本の将来予測に

与える影響と地域格差」が優秀賞、中谷光希さん、林尚吾さん、森一馬さん、青井拓海さんの4名が発表した論文「人口減少下における社会資本整備」が佳作を受賞しました。

この懸賞論文は、2017年と2021年に実施した「社会資本に関するインターネット調査」の結果を活用して、今後の社会資本整備のあり方や論点などを明らかにされることを期待して行われました。

卒業生が柔道「2023年世界形選手権大会」の「柔の形」で優勝

2023年10月28日、29日にアラブ首長国連邦(UAE)のアブダビで開催された柔道「2023年世界形選手権大会」の「柔の形」で、人文学部人類文化学科卒業生の石田桃子さんと、同学科卒業生の石田真理子さん姉妹

が日本代表選手として出場し、優勝しました。

2017年イタリアでの開催で初優勝してから、該当種目がなかった年やコロナ禍で中止になった年を除き今回で4連覇となりました。

左: 石田真理子さん
右: 石田桃子さん ▶



基礎スキー部が「第45回東海学生基礎スキー選手権大会」で男女ともに総合優勝

2月26日～29日によませ温泉スキー場で東海学生基礎スキー連盟主催の「第45回東海学生基礎スキー選手権大会」が行われました。約110名が参加し、基礎スキー部が見事男女ともに総合優勝を成し遂げました。基礎スキーの競技は、ターンの質、スピード、合理性などを競う採点競技です。



▲大会での様子



理工学部と法学部の学生が「2023 リそな SDGsアイデアコンテスト」で最優秀賞を受賞

理工学部データサイエンス学科2年(受賞当時)成田悠真さんと法学部法律学科2年(受賞当時)齋田わかかなさん、佐藤ひなのさんのチームroppyが「2023 リそな SDGsアイデアコンテスト」で、最優秀賞を受賞しました。

チームroppyは、「海の豊かさをまもろう」をテーマに、

人が遠隔で操作する海洋ゴミ回収ロボットを考えました。操作する人が実際に海の中にいる感覚を味わい、ゲームとして楽しくゴミを回収することができます。効率が重要視されているなかであえて人の手でゴミを回収するという新たなアイデアを考え、今回の賞を受賞しました。

左から:
成田さん、
佐藤さん、
齋田さん ▶



中高大連携に関する包括協定締結式

3月13日に不二聖心女子学院中学校・高等学校と、4月15日に仁川学院中学・高等学校と中高大連携に関する包括協定締結式を行いました。このたびの連携により、カトリックの教育理念のさらなる深化を図るべく、相互の教職員・学生・生徒の交流・連携を通じて、より魅力ある大学・中学高校づくりを推進することを目的とする中高

大連携事業を実施します。宗教またはキリスト教に対する知識を深めることや生徒の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めることを目的とした教育的取組を展開していきます。



▲左: ロバート・キサラ学長
右: 不二聖心女子学院中学校・高等学校 大原真実校長



▲左: 仁川学院中学・高等学校 永尾稔校長
右: ロバート・キサラ学長

理工学研究科システム数理専攻、データサイエンス専攻、理工学部システム数理学科の学生が「第51回日本OR学会中部支部研究発表会」で学生論文賞最優秀賞、学生論文賞優秀賞を受賞

3月2日、日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部「第51回日本OR学会中部支部研究発表会」で、理工学研究科システム数理専攻博士前期課程2年(受賞当時)小市研究室の古藤寛隆さんが学生論文賞最優秀賞、同研究科データサイエンス専攻博士前期課程1年(受賞当時)佐々木美裕研究室の古屋宗磨さんと理工学部システム数理学科4年(受賞当時)鈴木研究室の青井賀容子

さんが学生論文賞優秀賞を受賞しました。本学学生が独占して受賞したのは初めての快挙です。

古藤さんは「積み下ろしを考慮したパッキング問題」に対する解法の提案、古屋さんは「時間拡大ネットワークを用いた信号制御則の最適化」、青井さんは「キャンパスのOR—国際寮の部屋割り問題・契約電力の最適設定—」をそれぞれ発表し受賞しました。



▲左から: 青井さん、古藤さん、古屋さん

Special Events Schedule

2024.7.5-2024.7.7

第65回上南戦

7月5日(金)から7月7日(日)の3日間にわたり、第65回上南戦(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)本戦を南山大学で開催する予定です。今年のスローガンは“Be The Best”です。「最高を目指せ」、「最善を尽くす」という意味で、今年度の上南戦こそは、南山大学の単独総合優勝を成し遂げたいという思いが込められています。

パンフレット表紙▶



2024.7.13-2024.7.14

オープンキャンパス

今年のオープンキャンパスは、7月13日(土)、14日(日)に大学開催型を、8月2日(金)にオンライン開催型を予定しています。オープンキャンパス当日は模擬授業や学部・学科説明、個別相談コーナー、在学生によるキャンパスツアー等の企画を用意しております。ぜひご参加ください。オープンキャンパスの一部企画への参加は申込制となります。詳細は大学



Webページ「受験生の皆様」をご確認ください。

<https://www.nanzan-u.ac.jp/admission/opencampus/>



2024.7.11

ゆかたフェス

7月11日(木)に、第8回南山ゆかたフェスを開催予定です。南山ゆかたフェスは、ゆかたを着ることで日本文化に親しんでもらうことや、学内に交流の場を増やすことを目的とした参加型のイベントです。浴衣の販売や無料着付けだけでなく、緑日企画、プロカメラマンによる撮影等も予定しています。ぜひご参加ください。

7月中旬には、昨年に引き続き「南山ゆかたフェス×松坂屋コラボファッションショー」を開催予定です。学生によるアレンジした着付けをぜひ見に来てください。



▲昨年のゆかたフェスの様子

2024.9.28

保護者の集い

9月28日(土)に、保護者の集いを開催します。学部生保護者の皆様に対し、本学における教育・研究をはじめ、留学や就職支援に関する取り組みについてご説明させていただきます機会となっております。

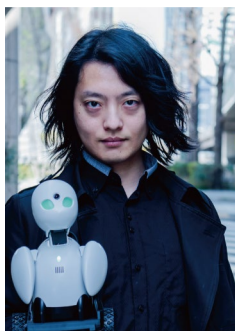
※詳細は8月下旬に保証人様宛に送付する案内文書でご確認ください。

「人間の尊厳賞」 第3回受賞者決定

■ 授賞理由

吉藤オリイ氏は、「孤独」という誰もが直面しうる社会問題に対して、電子通信技術と起業によって解決の糸口を見出してきた。とりわけ同氏が開発した分身ロボット「OriHime」は、職場や学校、野外行事などに遠隔から出席し、臨場感を持って他者とのコミュニケーションを図ることを可能にした。このロボットは重度の身体障がい者、外出しづらい人々など、さまざまな困難を抱えた幅広い利用者を想定でき、また、寝たきりになりうるすべての人にとっても希望の光になりうる。孤独に苦しむ人に生きる勇気を与え、不完全な社会を自らの努力でより良い場所にしようとする姿勢は「人間の尊厳」への理解をさらに多くの人々に広げ、「人間の尊厳」という理念の具現化を推進する実績であるといえる。

吉藤オリイ氏



■ Profile

分身ロボット発明家 株式会社オリイ研究所所長CVO。1987年奈良県生まれ。高校時代に電動車椅子の新機構の発明に関わり、2005年にインテル国際学生科学技術フェア(ISEF)に日本代表として出場し、グランドアワード3位受賞。その後、早稲田大学創造理工学部に進学。自身の不登校の体験をもとに、対孤独用分身コミュニケーションロボット「OriHime」を開発し、この功績から2012年に「人間力大賞」を受賞。また、寝たきりでも働けるカフェ「分身ロボットカフェDAWN」を開発。同プロジェクトは2021年度の「グッドデザイン賞」15000点の中から最高賞であるグッドデザイン大賞に選出された。海外では、2022年7月 Prix Ars Electronica 2022 digital communities部門にてゴールドメダル(最高賞)受賞。その他受賞歴多数。「ベッドの上にながら、会いたい人と会い、社会に参加できる未来の実現」が理念。

表彰式と記念講演会については次号でご案内します。



人間の尊厳のために
HOMINIS DIGNITATI

私の研究



稲垣 伸吉 (いなぎ しんきち)
理工学部 機械システム工学科 教授
専攻分野: ロボティクス、メカトロニクス
研究テーマ: 多脚ロボットの歩行制御理論とシステム開発
主な担当科目: 機械・材料力学、ロボット工学、機械システム工学演習、メカトロニクス研究

人の役に立つ 6脚ロボットの 実現に向けて

私の研究は、多脚ロボットの歩行制御に関する基礎理論から応用技術の開発までです。多脚の中でも、特に6脚を中心に研究しています。近年では、多くの実用的な2脚と4脚の歩行ロボットが発表されています。一方で、6脚ロボットは重量物を運搬でき、安定性に優れ、故障にも強いなどと期待され続けてきましたが、実用化に至っていません。その最大の原因は、脚数が多いため特に不整地での歩行制御が困難だからです。階段や岩場、急な斜面などの不整地において、歩行ロボットは、複数の脚をどの順番で地面のどこに、どのように着くかを瞬時に判断しなくてはなりません。6脚では2脚4脚



▲企業と共同研究中の大型6脚ロボット ▲脚で物を掴みながらの歩行

よりも動作の組合せが多くなるため、すべての脚を適切に制御することが困難になります。これに対して、私は接地点追従法という歩行制御法を開発しました。この制御法は、前脚が接地した後に後脚も接地して追従するという原理に基づいています。昆虫や動物の歩行に見られる現象を、工学的な事象駆動型分散制御のアルゴリズムとして実現したものです。最前脚の接地点が適切なら後脚が追従することで不整地歩行が実現できます。さらに今では、歩行性能に関する解析や発展の研究を進め、高い不整地踏破能力、自律歩行、脚を使った作業などを実現しています。また、企業とも共同研究を進め実用化に着手に進んでいます。人の役に立つ6脚ロボットの実現が私の目標です。

私のクラス



塩寺さとみ (しおでら さとみ)
国際教養学部 国際教養学科 准教授
専攻分野: 植物生態学、地球環境科学
研究テーマ: 人間活動による生態系への影響、自然資源の保全と持続的利用
主な担当科目: サステナビリティと国際問題、サステナビリティと生態系、サステナビリティ・スタディーズ概論

身の回りにある 驚きをみつけよう

私の専門分野は生物学の中の植物生態学です。生態学は、野外調査や実験室での分析によって植物と環境との関係性を解き明かすことを目的としています。私はおもに熱帯域を対象としており、インドネシアやマレーシアの森林や草原などで植物の多様性に関する研究を行ってきました。授業では、「サステナビリティと国際問題」「サステナビリティと生態系」「サステナビリティ・スタディーズ」といったサステナビリティ(持続可能性)と環境に関するものを担当しています。

「サステナビリティと国際問題」では、様々な地球環境問題について、その原因と対応策、さらに関連した国内外の動向について扱っています。一方、「サステナビリティと生態系」では、より私の専門分野に近い形で生物学に関する様々な

トピックを扱っています。どちらの授業でも、学んだことと日常生活とのつながりを実感できるよう、最新のニュースを取り上げて紹介しています。

生態学は自然科学に分類されますが、自然科学とは、自然現象そのものを理解しようとする学問です。簡単に言うと、自分の身の回りの自然の「なぜ」をすべて解明することが究極的な目標です。授業を通して、いまでは当たり前のように感じられていたすべての自然現象が、実は必然性のある法則によって成り立っており、その精緻なパズルの中に私達の存在があるという驚きを伝えていきたいと考えています。



▲熱帯泥炭地プロジェクトの成果本(左) ジャカルタ首都圏の文化・社会を地図化(右)

キャリア支援課 プログラム紹介

キャリア支援課では毎年多彩なプログラムを実施しています。「キャリアサポートプログラム」は、特に低年次生の参加を推奨していますが、すべての学年の方が参加可能です。また、学部3年次生と大学院修士1年次生向けには、「就職支援プログラム」を実施します。学生の皆さんは、積極的に参加してください。

キャリアサポートプログラム

学部・学科別学び方講座(1年次生対象)

4月から5月にかけて、新入生対象の「学び方講座」を実施しました。各学科の教員から大学での授業の進め方や卒業後の進路などの説明を受け、学生は自らの大学生活での具体的な目標や課題設定を行いました。

希望進路別ガイダンス

[就職(民間)、就職(公務)、進学(文系)、進学(理系)]

5月に、1・2年次生を対象に希望進路の実現に向けて大学生活をどう過ごすかを考えるための講座を実施しました。4回に分けて行われた「希望進路別ガイダンス」では、南山大生の進路実績や南山大学の支援体制のほか、学内外の講師を招き、幅広い情報提供を行いました。

1・2年次生サポートセミナー

4月に自己分析の方法について考えました。2月にはエントリーシートの書き方、筆記試験対策法等を低学年向けに説明します。

卒業生に聞いてみよう!

1月には、各界で活躍する卒業生をお招きし、社会人としてのやりがいや生きがい、学生時代の体験等を伺う講座を実施します。

★第3クォーターには、実践・体験プログラムで自らの適性・強み・弱点を知る「テーマ別ワークショップ」など多彩なプログラムを予定しています。

就職支援プログラム (主に学部3年次生・修士1年次生対象)

4月に就職ガイダンスを実施し、学生は就職活動への心構えや就職支援プログラムのスケジュール等を確認しました。今後は講座やワークショップ等で、インターンシップや本選考に向けて具体的な準備を進めていきます。キャリア支援課では、事前予約制で個別面談を実施していますので、学生の皆さんはぜひ活用してください。

[9・10月の予定] 行事の詳細および11月以降の予定はWebページまたはPORTAに掲載します。

プログラム名	文系	プログラム名	理系
第2回就職ガイダンス*	9月25日(水) 10月2日(水)	第2回就職・進学ガイダンス	9月25日(水)
就職対策講座1 [自己理解・自己PR]	10月9日(水)	就職対策講座1 [ESの書き方]	10月9日(水)
就職対策講座2 [業界・企業研究]	10月16日(水)	就職対策講座2 [自己理解・自己PR]	10月16日(水)
就職対策講座3 [志望動機・ESの書き方] 就職対策講座4 [先輩の体験談①]	10月23日(水)	就職対策講座3 [業界職種研究・志望動機] 就職対策講座4 [模擬面接]	10月23日(水)

※学部により実施日が異なります。

<https://office.nanzan-u.ac.jp/CAREER/index.html>



インターンシップサポート[学内企業説明会(仕事体験・インターンシップに行きたい企業が見つかる!)]

5・6月に、上場企業や人気企業を中心に約60社が南山生のみを対象に説明会を実施しました。学生は仕事体験やインターンシップに向けて企業研究や仕事研究を行いました。

卒業後の進路が決まった学生の皆さんへお願い

「進路届」の提出および「就職活動体験記」へのご協力をお願いいたします。「進路届」は進路が決まった時点で、全員提出が必要です。また、体験記は後輩の皆さんにとって何物にも代えがたい貴重な資料となりますので、ぜひご協力ください。

「進路届」は、キャリア支援課(Q棟2階)窓口もしくはPORTAアンケートにてご回答ください。また「就職活動体験記」作成要領およびフォーマットは下記Webページからダウンロードできます。

<https://office.nanzan-u.ac.jp/CAREER/news/009291.html>





2024.2.19

在名古屋トルコ総領事 ダムラ・ギムシユカヤ氏が来学され、キサラ学長を表敬訪問されました。キサラ学長はギムシユカヤ総領事の来訪を歓迎するとともに、本学とトルコの学生間交流についての意見交換を行い、今後の日本とトルコの友好関係について議論を交わしました。

▲左:キサラ学長
右:ギムシユカヤ総領事



2024.4.5

Divine Word College of LegazpiのNiolo M. Cantilado学長はじめ5名が来学され、キサラ学長を表敬訪問されました。同じ神言会が設置母体になっている大学として、研究や教育における今後の交流の可能性について議論が行われました。

▲左: Niolo M. Cantilado学長
右:キサラ学長



2024.4.22

University of Maryland Baltimore CountyのDavid Di Maria氏(Associate Vice Provost)とRyan Sheldon氏(Director of the ELI)が来学され、キサラ学長を表敬訪問されました。COILをはじめ様々な交流の拡大についての議論が交わされました。

▲左:キサラ学長
右:David Di Maria氏



Information

■ 名誉教授称号授与

次の8名の教授に対しその功績を称え、名誉教授の称号を授与しました。

2023年12月15日付

●法学部
伊藤 司 教授

2024年4月1日付

●外国語学部
川島 正樹 教授

●経営学部
薫 祥哲 教授
BREMER, Marc 教授

●法学部
青木 清 教授

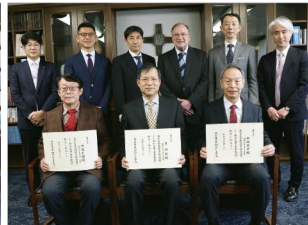
●総合政策学部
梁 暁虹 教授

●外国語教育センター
町田奈々子 教授

●体育教育センター
中路 恭平 教授



▲前列左から:梁暁虹教授、青木清教授、BREMER, Marc教授、町田奈々子教授



▲前列左から:川島正樹教授、薫祥哲教授、中路恭平教授

■ 寄附者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力を感謝いたします。

鬼頭 誠様 宗教法人カトリック神言修道会
田村 誠久様 代表役員 サンティアゴ・エドガルド・ジュニア・ラアガス様
匿名ご希望者 株式会社エヌ・イーエス様
2名様

「新型コロナ対策学生応援募金」へのご協力を感謝いたします。

匿名ご希望者 1名様

「南山大学創立75周年記念募金」へのご協力を感謝いたします。

福田 尚登様 神野 春光様
辻 雅明様 森 薫様 匿名ご希望者
加藤 雅毅様 玉川 京幸様 4名様

「南山大学博士後期課程奨学支援募金」へのご協力を感謝いたします。

鬼頭 誠様 匿名ご希望者
2名様

■ 本学名誉教授 石黒 毅氏のご逝去

本学名誉教授の石黒毅氏(93歳)が、2024年3月8日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

■ 退職

2024年3月31日付

●人文学部
教授 青山 幹哉

●外国語学部
教授 上村 直樹
教授 川島 正樹

●経営学部
教授 BREMER, Marc
教授 薫 祥哲

●法学部
教授 青木 清
教授 平嶋 竜太

●総合政策学部
教授 梁 暁虹
准教授 BOSAKAIBO, B. Georges

●国際教養学部
教授 鹿野 緑

●外国語教育センター
教授 町田奈々子
講師 趙 偵宇
講師 ELMETAHER, Hosam
講師 OLIVERO, Regis
講師 TIDMARSH, Andrew
講師 TAYLOR, Jamie

●体育教育センター
教授 中路 恭平

●保健センター
助教 高科 沙知
助教 勝野 飛鳥

●ハラスメント相談室
准教授 野田裕美子

■ 新任教員紹介

2024年4月1日付

●人文学部
講師 原田 昌浩
(専攻分野:考古学、文化遺産学)

●外国語学部
教授 戸田由紀子
(専攻分野:アメリカ文学、カナダ文学、英語圏文学)

准教授 SAKAMOTO, Fern
(専攻分野:異文化コミュニケーション、インターカルチュラル&グローバル・コンピテンス、アカデミック・ライティング、TESOL(英語教授法))

講師 松井さなえ
(専攻分野:スペイン語学、音声学、心理言語学)

●法学部
教授 石畝 剛士
(専攻分野:民法)

講師 宮尾 亮甫
(専攻分野:公法学、行政法)

●人類学研究所
講師(学芸員) 高柳 心み
(専攻分野:博物館学、文化人類学)

●外国語教育センター
講師(S.L.I.) TAYLOR, Jamie
(専攻分野:英語教育)

講師(L.I.) 黄 沈黙
(専攻分野:中国語学、漢語方言学)
講師(L.I.) TAKEUCHI, Rebecca
(専攻分野:英語教育)

講師(L.I.) DARMON, Christophe Mitchito
(専攻分野:日仏対照言語学、フランス語教育)

講師(L.I.) LANGLEY, Patrick
(専攻分野:International History)

●保健センター
助教 山田 麻未
(専攻分野:臨床心理学)
助教 ポイズ直美
(専攻分野:カウンセリング学)

■ 新型コロナ対策学生応援募金終了のお礼

2020年から皆様をお願いして参りました「新型コロナ対策学生応援募金」は、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、2024年3月31日をもちまして終了いたしました。

同窓生の皆様、在学生保護者の皆様、関連企業の皆様、その他本学教職員等多くの方々から、総額26,996,600円のご支援を賜りました。ここにご報告するとともに、皆様からの温かいご厚志に心より感謝申し上げます。

賜りましたご厚志は、学修環境整備給付金(学生一人あたり一律5万円)の支給、学業継続支援奨学金(貸与型)の整備、遠隔授業のための通信環境整備(Wi-Fiルーターの一部大学負担による貸与、ノートPCの貸与)など、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急の学生支援のため有効活用させていただきます。

「人間の尊厳のために」を教育モットーに掲げる本学は、これからも学生に寄り添う教育を実現して参ります。今後とも、皆様からのあたたかいご支援をお願い申し上げます。

本学では、学生の活動などをWebページ「NANZAN Today」、Instagram、Facebookでも紹介しています。ぜひご覧ください。

NANZAN Today



Instagram



Facebook



南山大学

発行 広報・募金課 / 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: pr-gaku@nanzan-u.ac.jp <https://www.nanzan-u.ac.jp/>